

未来を担うハンドボーラーのための

「ドーピング」ってなんだろう？

貝沼 圭吾

かいぬま・けいご、1979年生まれ。東海高（愛知）でハンドボールに出会い、大学時代からは審判にも携わる。現在は国立病院機構三重病院で小児科医として、運動誘発ぜん息などの研究診療に従事。同時に現役レフェリー、三重県審判長としても活動し、日本協会では審判部、アンチドーピング特別委員会委員、医事委員としてハンドボールと深く関わる毎日を送っている。

「ドーピング」という言葉を聞いたことはあるだろうか。スポーツで好成績をあげるために禁止されている薬物などを使うことだ。「自分には関係ないよ」と読者のみなさんは思うかもしれないが、じつはそうでもないんだ。この連載を通して、一度「ドーピング」について学んでみよう。

Vol.6

アンケート
回答の報告

みなさんこんにちは。今回は、前回に引き続きアンチドーピングに関するアンケート結果の報告をしたいと思います。

今回は、『サプリメント』『漢方薬・栄養ドリンク』『病気・ケガ時の対応』に関する質問での統計結果です。当連載でこれまでも

質問、疑問をお寄せください！

当連載に関係する質問や疑問があれば、遠慮なくお寄せください。特別委員会のみなさんも、ハンドボーラーがアンチドーピングのどんな点を知りたいのか、とても興味を持っています。お名前（ペンネームも可）、年齢（学年）、質問事項をご記入の上、144ページ下欄の宛先より「『ドーピング』ってなんだろう？」係までメール、ハガキ、FAXでお送りください。

ご紹介したことはありますが、最終的な統計として、今回のものを参考にしてください。
（※分野の数字、及び質問のアルファベットは前回からの続き）

分野③ サプリメント

K『サプリメントの主な購入経路を教えてください』

●薬局などで直接購入する
代表経験あり…73・2%
代表経験なし…71・6%

●インターネットで国内から購入する
代表経験あり…26・8%
代表経験なし…22・8%

●インターネットで海外から購入する
代表経験あり…0%
代表経験なし…5・6%

L『サプリメントにも禁止薬物が含まれているものがあることを知

っていますか』

●知っている
代表経験あり…55・6%
代表経験なし…44・4%

質問しについてですが、そもそもサプリメントは医薬品ではなく、その成分をすべて表示する義務がありません。よって、表示されていない禁止薬物が含まれている場合が多くあるのが事実です。

もし、使用を希望する際は、「禁止薬物が含まれていない」と日本アンチドーピング機構（以下、JADA）により認定を受け「JADA認定商品マーク」の表示のあるものを使用してください。

また、海外から購入すると答えた方がいました。確かに海外製のものは安価であることが多いのも事実ですが、実際にプロテインと称する筋肉量を増やす目的のものの中に、禁止物質であるステロイド剤が入っていたという事例もあります。すでに述べたように、成分をすべて表示する義務がありま

せんので、海外製品は使用しないことをお勧めします。

分野④ 漢方薬・栄養ドリンク

M『漢方薬を使用しますか？』

●使用する…7%
●使用しない…93%

N『栄養ドリンクを使用しますか？』

●使用する…40%
●使用しない…60%

質問Mでは、漢方薬を「使用する」と答えた人は1割未満でした。

直接漢方薬を飲むことは、みなさんにとってはあまりなじみがないかもしれませんが、じつは気がついていないところで体内に取り入れている場合があります。

例えば栄養ドリンクもそのうちの1つです。知らず知らずのうちに服用している可能性があります

ので気をつけてください。漢方薬の中には、興奮剤の成分（麻黄、半夏など）、ホルモン剤類似成分（つまりステロイド系、鹿角など）を含むものが多数あるので、使用を控えてください。

質問Nでは、栄養ドリンクを「飲む」と答えた人は約4割でした。さらに栄養ドリンクを飲むと答えた人の中で「禁止物質の使用を調べますか」と質問したところ、「調べる」と答えた人は約半数でした。調べないと答えた人の理由としては、入っていると思わないから、という答えがほとんどでした。

栄養ドリンクは「体を元気にする」という目的があります。「滋養強壮」といった言葉が書かれているのを見たことがあるのではないでしょうか。

滋養強壮というのは、体を強くするという意味を含んでいます。体を強く＝ドーピングということになりますよね。

このように、すべてのドリンクが禁止薬剤を含んでいるわけでは

ありませんが、興奮剤、漢方薬を含んでいる場合が多くあります。

ある日本代表選手の回答には、現役選手である間は絶対に飲まない、というものもあり、強い意志が感じられました。

また、最近流行しているレッドブル、エナジードリンクといったドリンクは、実際に私が販売会社を確認をとったところ、担当の方からは「使用は自己責任でお願いします」と言われており、われわれの見解としては、使用は勧められません。

分野⑤ 病気・けが時の対応

O『病気やけがで薬を使うとき、どのようにして入手しますか？』

●チームの所有薬を使う…11%
●薬局で相談して購入する…14%
●病院で医師に処方してもらう…75%

P『薬局や病院では自分がドーピング検査を受ける可能性があるこ

とを伝えますか？』

●伝える
代表経験あり…74%
代表経験なし…44%

Q『処方された薬に禁止物質が含まれていないことを確認しますか？』

●確認する
代表経験あり…75%
代表経験なし…45%

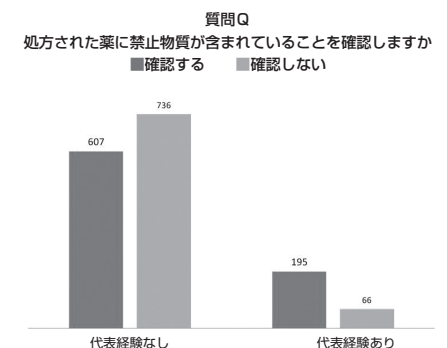
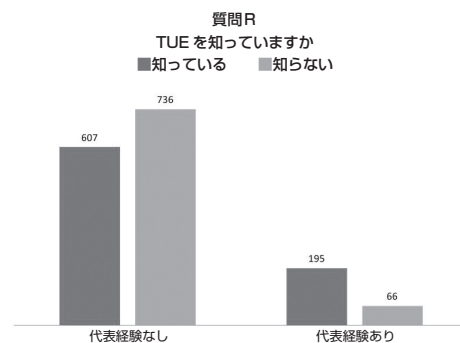
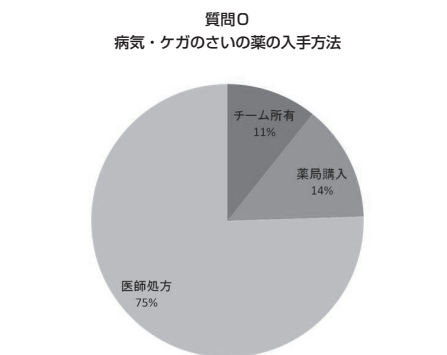
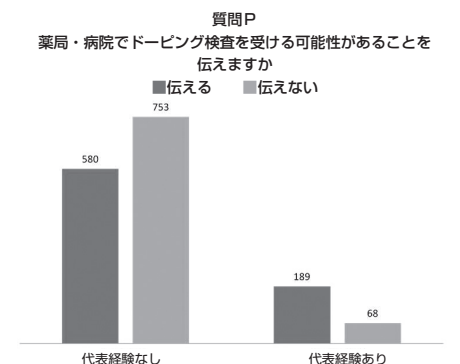
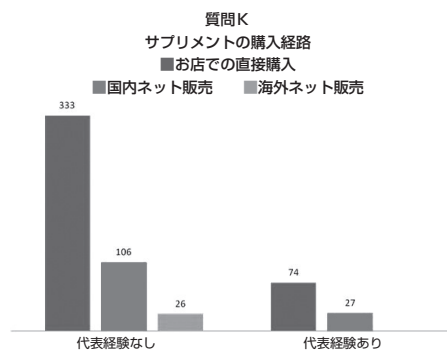
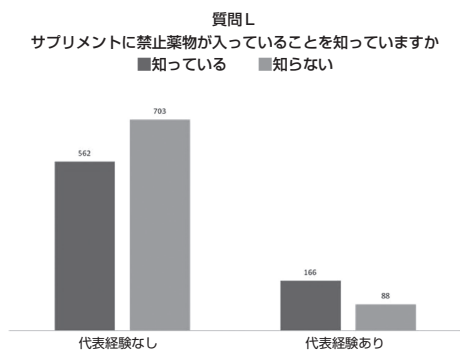
R『治療目的の使用に係る除外措置（TUE）を知っていますか？』

●知っている
代表経験あり…75%
代表経験なし…45%

S『TUEを申請したことはありますか？』

申請したことがある人が、全体で54人（代表経験問わず）

この分野に関しては、これまで



にも何度かお話ししてきましたので、要点だけをお伝えしたいと思います。

質問Oでは、4月号で示したドーピング検査に引っかけられない市販薬の一覧表をぜひ参考にしてください。

また、今年度になりJADAからも使用可能市販薬リストが発行されましたので、ホームページ上から確認してください。薬局で相談する際の注意点は、**薬局の店員が必ずしも薬剤師ではない**ということです。アンチドーピングに詳しいスポーツファーマシストが所属する薬局であれば最もよいですが、まだまだ数が少ないので、そうした薬局が近くにあるとは限りません。

これは病院でも同様です。医師が処方する薬であれば間違いないという意見をいただきましたが、確かに病気を治すためであればよいと思います。

ですが、多くの医師は、ドーピングには詳しくありません。みなさんが思っている以上に詳しくない

いと思っています。私自身も4年前まではまったく詳しくありませんでした。

質問P、Q、Rについては、結果として、日本代表経験がない人では半分弱、代表経験のある人では75%が、しっかりとした認識があると思われました。先ほど述べたように、日本の医療状況では、「病を治す」ことが第一に考えられ、「スポーツ選手」の選手としての将来を「守る」ことには、それほど目が向けられていません。ですから、みなさん自身が意識を高く持つて、

・ドーピング検査の対象になる可能性があること

・使用する薬の中に禁止物質が入っていないかを確認すること

・自分でも禁止物質が入っていないかを改めて確認すること

・「たぶん大丈夫」では絶対に飲まないこと

を、みなさんのハンドボール選手としての未来を守るために、しっかりと意識してもらいたいと思います。

さて、最後に「治療目的の使用に係る除外措置（TUE）」についてです。

これは、禁止物質・禁止方法を治療目的で使用したい競技者が申請して、認められれば、その禁止物質・禁止方法が使用できる手続きです。

じゃあ、TUEさえ申請すれば、なんでも使用することができるのかというと、けつしてそういうわけではありません。

医師の診断書、禁止物質・禁止方法を使用せざるを得ない状況に至るまでの経緯、使用したい禁止物質・禁止方法が使用できないければ、病気のコントロールが極めて難しいと判断される場合にのみ許される、非常に厳格なシステムとなっています。

大会前に急病になった時、緊急的な治療が必要になった場合などは、TUEの申請が必要になることがよくあります。このTUEと

TUEとは？

いうシステムがあることも忘れないうようにしてください。

TUEの申請に関する詳細な説明は日本ハンドボール協会のアンチドーピングのページにリンクされていますので、ぜひご参照ください。

さて、2カ月にわたり昨年度に施行した「アンチドーピングに関するアンケート」の最終結果を報告しました。みなさんどのように感じられましたか？

このアンチドーピングの連載も6回を数えることになりました。今、もう1度アンケートをしたら、昨年度よりも少しでも結果が良くなっていればうれしいなと思う今日このごろです。

アンチドーピング ホットライン

電話番号
090-9304-5420

メールアドレス
handball@japan-sports.or.jp